

あとがき

宇都宮大学HANDS プロジェクトは、今年度(平成25年度)より、「北関東を対象とした外国人児童生徒支援のための地域連携事業」として新たな3年間のスタートを切りました(平成22-24年度は「グローバル化社会に対応する人材養成と地域貢献—多文化共生社会実現に向けた外国人児童生徒教育・グローバル教育の推進—)。今年度の成果の一つとして、『中学教科単語帳』(日本語⇄フィリピン語)をお届けします。タイ語、スペイン語、ポルトガル語に次ぐ単語帳の第4弾となります。コーディネーターの船山千恵さんを中心に、2名の翻訳者の協力を得て完成することが出来ました。

昨年度中からポルトガル語の次はフィリピン語と関係者で大体決めていましたが、相談する相手はやはりチェリー(マリア・ロザリオ・ピケロ・バレスカス)しかいないと思い、船山さん、フィリピンにルーツのある学生と共につくば市に出かけたのが昨年春の5月頃だったでしょうか。つくば市にあるカトリックつくば教会でチェリーとは久しぶりに再会し、須藤エルビラさんとは初めてお会いしました。単語帳刊行の趣旨を十分に理解してもらい、早速具体的な打ち合わせを進めることが出来ました。

チェリーとは、かれこれ30年の付き合いです。チェリーは、僕が筑波大学大学院生だった時の先輩です。僕は筑波大学の二期生ですが、確かチェリーはフィリピンから筑波大学へ留学した初めての学生だったと思います。チェリーと出会ったことが縁で、僕はその後マニラにあるチェリーの実家にホームステイさせてもらいながら、5か月ほどフィリピン大学に通うことが出来ました。パパさんとママさんに「マツオ、マツオ」ととても可愛がってもらったことが懐かしく思い出されます。

チェリーは、フィリピンの児童労働、フィリピン人エンターティナー等の研究をしてきましたが、様々な支援活動にもかかわりながら、フィリピンと日本の架け橋として多分野で活躍しています。

この単語帳が縁で、須藤エルビラさんとは初めてお会いしましたが、ご多忙のところいつも時間厳守で着実に仕事を進めていただき、大変感謝しています。また、エルビラさんのご主人である須藤松一さん、カトリックつくば教会および筑波大学の関係者が大きな支えになってくれたと伺っています。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

南米人が減少傾向にあるなかで、フィリピン人は増加傾向にあります。日本語指導を必要とする児童生徒の母語別状況では、平成24年5月現在、フィリピン語(16.6%)は、ポルトガル語(32.8%)、中国語(20.4%)に次いで3番目です(4番目はスペイン語12.9%)。

次の単語帳はどうするかなど、今日もまた、HANDSの新しい展開に向けて様々な思いを巡らしています。

Maraming salamat po. (どうもありがとうございます。)

宇都宮大学HANDS プロジェクト研究代表
宇都宮大学国際学部長 田巻松雄